

水生生物調査 2022年 1月～6月

上瀬谷A地点・畑ビオトープ

月 日 時刻	1月15日(土)14:10		2月19日(土)14:20		3月19日(土)14:30		4月16日(土)14:45		5月21日(土)14:30		6月18日(土)14:10	
場所	A	HB		A	HB		A	HB		A	HB	
気温	1.9.5	—		11.6	8.1		15.3	15.1		17.3	16.3	
水温	—	—		11.5	9.2		14.9	16.8		16.2	16.8	
PH	—	—		6.7	8.4		6.5	8.6		7.5	7.7	
1 ヨコエビ	◎			○			○			○		○
2 ミズムシ(ダンゴムシ型)	○			○			○			○		
3 ミズムシ(ボート型)												
4 サホコカゲロウ												◎
5 カクツツビゲラ			○									
6 ユスリカ			○			○		○		○		
7 ガガンボ												○
8 アメンボ								○ ○		○ ○		
9 プラナリア	◎					○		○		○		○
10 ミミズ												
11 イトミミズ												
12 ミジンコ												
14 ハイイロゲンゴロウ												
15 ガムシ												
16 ヤゴ(シオカラ等)										○		◎
17 カワニナ	◎	○		○ ○		○ ○		○		○ ○		○ ○
18 マルタニシ												
19 シジミ												
20 サカマキガイ												
21 ドジョウ												
22 クロメダカ												
23 ヘイケボタル												
24 ヌマエビ	◎	○		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○		○ ○
25 スジエビ												
26 ザリガニ	○			○		○		○		○		○
27 サワガニ										○		
28 オタマジャクシ										○		○
29 カワモズク												
30 アオミドロ	○							○				
31 ヒル												
32 その他				マメシジミ		マメシジミ		マメシジミ		マメシジミ		
備考	A;水路の流れが止まり、溜水状態になっている。全体を覆っていたアオミドロは殆ど消えている。カワニナは稚体から成体まで全てが観られたが、多数いたプラナリアは、成体は観られなかった。HB:土砂が堆積し生物は3種のみであった。		A:流れが止まり水位も下がっている。水生生物の種類が減り各個体の大きさも小さくなっている。常に観察されていたプラナリアも観察できなかつた。HB:上流側の盛土により大量の赤土が流れ込むようになり水深がより浅くなつた。		A:水路の流れは引き続き止まっていて、生物数も少ない。その中で湧水域を好むとされるマメシジミが安定して観察できている。観察者の目が慣れてきたこともあるが、体が小さいがゆえに生き続けることができているのだろうか。		A:前日来の雨により水量が増し、気温も上昇して生物数が一挙に多くなつた。特にマメシジミは20個体ほど採集できた。今までないことがあった。TB:上流側の盛土工事によって溜ってしまった赤土により種類も個体数も少ない。		A:田植え直前で一定の水位の水が流れていたが、水生生物の種類も個体数も少なかつた。TB:アマガエルらしきオタマジャクシが多数泳いでいる。アズマヒキガエルのオタマはすでに見られなくなつた。畑の中で大きなアズマヒキガエルが見つかった。		A:田植えが終了し、大量の水が勢いよく流れている。水路壁面の植物にとりついているサホコカゲロウが大量に捕獲された。今まで多数いたヌマエビは1匹のみであった。TB:飛翔して来て産卵できるイトンボ等の幼虫が多く観察された。	